



お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです

MMWIN活用インタビュー アイン薬局一番町店様



MMWINに加入したのは昨年の12月。東北大学病院 薬剤部様とトレーシングレポートを薬業連携ツールで作成しMMWINメールで送付することを選択し導入されました。アイン薬局一番町店 薬局長 狭間 翔平様に、今後の活用方法についてお話を伺いました。



薬局長 狭間 翔平 様

施設の紹介をお願いします

一番町店は、常勤薬剤師6名、取り扱い品目数は約1700です。街中にある薬局ということで、総合病院からの処方はいくつか、近隣のクリニックでの対応が主です。在宅医療にも力を入れていて月平均20の施設、個人宅を医師と同行、あるいは単独で訪問し他の医療、介護従事者と連携しながら薬物治療をサポートしています。



薬業連携ツールを活用した感想はいかがですか

MMWINは現状、東北大学病院とトレーシングレポートの作成、送付で活用しています。まだそれほどの実績はありませんが従来のFAXでの送付よりも個人情報管理の面で優れていると感じています。FAXですと、番号が違う場合に本来送るべきではない場所へ誤って送信されてしまう怖さがあります。

患者さんの検査値や服用履歴などの情報は個人情報ですので、デリケートに扱う必要があり、最も注意を払います。その点でMMWIN利用は、個人情報管理や情報収集の点からも安心できると思います。

また、トレーシングレポートの作成、送付だけではなく、医療機関同士のコミュニケーションツールとしても有用だと感じています。

診療情報参照システムを使用してはいかがでしたか

退院サマリー、服薬履歴の情報や副作用情報などを共有することができ、病態が安定してクリニックへかかっていた際も、患者さんの情報収集の方法として有効です。また、それだけではなく在宅移行がすすんでいる現在の医療現場でも運用できると考えてます。医師、看護師、ケアマネジャーなどと連携していただければ円滑に患者さんの状態や服薬状況の現状把握に役立つと思っています。

医療DX化が推進していく中で、業務負担の軽減や患者情報の収集の容易性に繋がるであろうMMWINの活用機会が増えることは重要です。

今後活用機会が増えれば、薬局連携や病院連携を円滑にできるツールであり、より医療機関同士の顔が見える関係構築が容易になると思うので、加入してくれる患者さんや医療機関が増えることを期待しています。

一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号

【事務局】

TEL : 022-395-6312 FAX : 022-395-6313

E-mail : office@mmwin.or.jp URL : http://mmwin.or.jp/



MMWIN通信は最新号からバックナンバーまで当協議会ホームページに掲載しております

【サポートセンター】

TEL : 022-399-6880 E-mail : office@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。『MMWIN』『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。※本誌の収録内容の無断転載、複製、引用、改変等を禁じます。

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



MMWIN® 通信

みんなのみやぎネット® NEWS

2024
12.27
vol. 79

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会



救急疾患患者発生時におけるMMWINの活用法



～クライアント編～

2024年6月21日発行のMMWIN通信 vol.77では、東北大学病院 心臓血管外科 准教授 熊谷 紀一郎先生の『循環器救急疾患患者発生時における検査画像の共有』によるメリットについてご紹介させていただきました。

今回はその続編として、栗原市立栗原中央病院 循環器内科 部長 矢作 浩一先生と、看護師の澤邊 直美様より、実際に患者様を搬送された際の状況、およびクライアント側としてのメリットや課題についてお話を伺いました。

秋に本連携を開始し、東北大学病院へ照会した2例の状況としては、発症された患者さんが来院し造影CT検査などの結果、大動脈解離と診断されました。循環器内科から東北大学病院へ連絡し、MMWINで画像を見てもらえるよう患者IDや氏名などを伝えました。1件目は搬送、2件目は経過観察で良いとの返答がありました。連絡してから返事が来るまでは約1時間でした。

従来は相手の病院が引き受けてくれるか、**患者さんの状態を全て電話口で説明**していました。これが大変難しい。血栓化や心臓へのダメージの有無、大動脈の径、解離の広がり、他臓器の状態…1回の説明に約30分かかり、そこから相手病院で受入会議が開かれ、**もし断られたらまた次の施設へ電話して同じ説明を最初からしなければなりません**。引き受けてくれる病院が見つかるまで、2～3時間かかることもありました。



矢作 浩一先生

『**耳聞は一見にしかず**』という通り、言葉でいくら説明するよりも、専門家が画像を見れば、上記の情報が全て含まれているのでMMWINは一見で終わります。IDなどを伝えた後は待つだけで良いので、**本来は電話をしている時間を、患者さんに集中できるのが最大のメリット**だと思います。今後、新たな取り組みとして、当科の医師がMMWINのタブレットを用いて、自院の画像を自宅や官舎で参照することで、**病院からの呼び出しを軽減**することを目指しており、**医師の働き方改革にもつながる**ことを期待しております。

課題としては、現在MMWINで参照できるデータの中に心電図が含まれていないことが挙げられます。心電図の情報は非常に重要であるため、今後院内でも検討を進めてまいります。



澤邊 直美看護師

緊急時は看護師も医師と一緒に受入施設を探しますが、その間にも患者さんの他の血管が裂ける可能性もあります。医師の電話の時間が短くて済むと搬送の準備をすることができますし、搬送しない場合でも、**大学病院の教授が「様子見て大丈夫」と言ってくれたというだけで、気持ちが違うので、それだけでも良かった**と思います。

何百枚もの画像を簡単に共有できるのはMMWINだから可能だと思います。

【本連携が医療従事者にもたらすと考えられるメリット】

- ・（施設）画像CD-Rが不要になる・・・書き込みや読み込みにかかる時間の短縮や消耗品費の削減が可能
- ・（医師）電話での病状説明が不要となる／病院からの呼び出し軽減・・・業務負担軽減

➡ **経営の効率化および医師の働き方改革につながることが期待されます。**

MMWIN重心連携 参加施設の声

宮城県内の重症心身障害児・者のための医療介護連携に、MMWINネットワークを活用して継ぎ目のない情報連携の構築を行ってきました。在宅介護情報の一元化や、支援者間の情報共有を関係医療機関で円滑に連携がとれるための体制づくりを進めております。現在、トライアル運用で短期入所時のADL情報をネットワークに登録し、連携施設間で共有することを計画しております。

今回は重心連携を活用いただいている、仙台赤十字病院 小児外科 岡村 敦先生よりお話を伺いましたのでご紹介します。

重心連携に参加してみたいかでしたか

当科では、重症心身障害児(者)の入院施設から、急な病態変化に対する治療相談や、転院しての手術を依頼されることがあります。MMWINのネットワークにより、検査結果や画像情報を遠隔で確認することで治療方針のアドバイスを与えることができ、患者の移動を要せずにそのまま入院施設での治療が行えた経験や、紹介状に書かれている以上の転院元施設での診療情報を、転院後に確認しながら診療を行えた経験から、適切に活用することで診療に有益であると感じました。



仙台赤十字病院
小児外科 岡村 敦先生

重心連携に期待することありますか

重症心身障害児(者)の診療においては、喀痰吸引や体位変換などの細かい部分に関しても個人差が大きく、情報共有が重要なポイントとなります。これまでは各施設が必要とする患者情報が、それぞれ独自の形式で管理されており、他施設での診療が必要となった際には情報共有に時間を要することもありました。MMWINネットワーク内に統一した患者ADL情報を共有することで、どこの施設でも同様の環境で診療を受けられる体制が期待されます。



重心連携の課題は为什么呢

重症心身障害児(者)は様々な病態を有しており、診療のためには関わるスタッフそれぞれの理解が必要となることから、現状では診療を受けられる施設が限られ、成人診療科への移行も容易ではありません。誰もが同様に、適切な医療を受けられるシステムの構築が必要で、多くの施設の参加が望まれます。

事務局では、重症心身障害児・者とご家族が安心できる、シームレスな情報連携体制の構築を積極的に支援いたします。関連施設様にはMMWINシステムの活用または新規ご提案を随時実施しておりますので、詳しい内容を聞きたいという施設様は事務局までご連絡ください。

第4回「保険薬局のためのMMWIN活用Web講座」

2024年10月16日(水)に「保険薬局のためのMMWIN活用WEB講座」が開催され60名を超える参加となりました。今回は、講演後の座長と演者の談話をご紹介します。

座長：東北大学病院 薬剤部 副薬剤部長 松浦 正樹先生
演者：ひかり薬局 大学病院前調剤センター 藤田 尚宏先生
仙台調剤薬局 大河原西店 横谷 祐輔先生
カメイ調剤薬局 台原店 佐々木 貴彦先生



松浦先生

【講演1】薬業連携ツールを活用した当薬局のポリファーマシー連携

松浦先生：ポリファーマシー対策は病院でも取り組んでいますが、なかなか難しく薬局でも同じだろうと思います。6剤以上で介入するとお話がありました。結構な人数がいらっしゃいますがどうでしょうか。

藤田先生：対象者が多く算定に至らないことが多いです。ご紹介した13例は算定要件を満たさなくとも注意喚起を行っています。患者さんは「何でもなく、飲んでますよ」、との回答が多い中で介入のきっかけを見逃さずにつなぎとめるのが難しいです。

松浦先生：入院時と同様に在宅時も重要な活動ですね。



藤田先生

【講演2】MMWINを用いた薬局連携 -保険薬局薬剤師の介入事例-

松浦先生：がんフォローアップはこれからどんどん新しい薬が出てきますが病院薬剤師との連携する際に役に立っていることがあれば教えてください。

横谷先生：定期的な勉強会があり、中核病院門前薬局3店舗の薬剤師と病院薬剤師で症例検討を行っています。電話フォローすることで患者さんからの質問に対応しています。例えば発熱や下痢だったり、患者さんの訴えをどう評価するのが難しいのですが、病院プロトコルを紹介してもらい、病院からの質問に薬局側が情報を正しく伝える体制が重要と思っています。誰が電話フォローしてもしっかりと聞き取りができ、情報提供ができるようになることが課題です。その中でCTCAEを用いたり病院のプロトコルを紹介いただくことで、しっかりとした報告が経験を通してできるようになりました。



横谷先生

【講演3】注射導入のMMWIN活用事例

松浦先生：医師との連携ができていて素晴らしい事例です。MMWINのコミュニケーション機能を使い情報共有していることを聞いたことは有意義なものでした。大学病院では原則FAX禁止されており郵送または電子的なやり取りをしており非常に有効と感じています。症例においては調剤後のフォローアップで入院から在宅に戻ると食生活が変わってしまい悪化して再入院したケースもあります。薬局薬剤師のかかわりの重要性を再認識した次第です。糖尿病患者のフォローアップは病院との連携が非常に大事だと思いますが、うまくいったきっかけを教えてください。佐々木先生：病院から注射導入指導の依頼がありました。ミーティングには処方医、看護師が参加されており、直接先生方とお話できたことで導入から実践までサポートしてくれたのが良かったと感じています。



佐々木先生

ファーマシー対策、経口抗がん剤の服用事例、糖尿病患者さんへの対応などそれぞれのアプローチでMMWINを利用していることをご紹介いただき、病院と保健薬局との連携が非常に良く進んでいることを参加者と共有できました。